

大賞

横浜市資源リサイクル事業協同組合

横浜市内のリサイクル事業者により 1992 年に設立された横浜市資源リサイクル事業協同組合（組合員数：137 社）では、循環型社会の形成を目指す「リサイクルデザイン」の考え方を打ち出し、「読む」「描く」「体験する」の3つの視点からの活動を通じてグリーンコンシューマーの育成に取り組んでいる。

●双方向のコミュニケーションを重視

横浜市資源リサイクル事業協同組合では、「読む」の視点からの取り組みとして 1994 年から「月刊リサイクルデザイン」（無料）を発行し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）をはじめ、環境に配慮した暮らしの実践に向けた情報を発信している。現在の発行部数は 89,000 部で、町内会や地方自治体の協力を得ながら配布を行っている。

「月刊リサイクルデザイン」では、多様な排出資源のリサイクルのしくみ、関連イベントの紹介やレポート、用語解説、エッセイ、特集記事など、様々な切り口から情報を提供している。一方通行の情報発信にならないよう、サポーターやモニターからのフィードバックやアンケートを通じて双方向のコミュニケーションに努め、読者からの声を活動に反映させている。



「月刊リサイクルデザイン」

●小学生を対象とする「環境絵日記」コンクール

「描く」という切り口からは、2000 年度より横浜市内の小学生を対象に、夏休みに「環境絵日記[※]」コンクールを実施している。市内の 360 の小学校に応募用紙を配付して募集を行い、優秀な作品の表彰および発表会を開催している。

2008 年度は、小学校低学年は「温暖化ストップ」「リサイクル生活」、高学年は「リサイクル生活で温暖化を止めよう」というテーマで募集を行い、応募のあった 9,548 作品の中から「リサイクルデザイン賞」に選ばれた 517 作品が、「リサイクルデザインフォーラム 2008」（2008 年 10 月開催、来場者：6,365 名）で展示された。また、10 年目となる 2009 年度の応募作品数は 10,316 点に達している。

※「環境絵日記」は横浜市資源リサイクル事業協同組合の登録商標です。



「リサイクルデザインフォーラム 2008」

●体験型の講座や見学会を開催

「体験する」の視点からの取り組みでは、市民向け 3R 普及啓発講座「資源とごみの分別体験」を行っており、実施回数は年間 100 回以上に達している。この講座では、日常的に家庭から排出される資源やごみを参加者が実際に分別し、それぞれについて解説を行う。また、循環型社会の構築、3R 推進における優先順位などについて、スライドやビデオを活用して説明している。

2009 年 4 月には、より多くの人たちが受講できるよう、講座の内容を収録した DVD を制作し発売した。さらに、講座とあわせてリサイクル施設の見学会を行っており、2008 年度は 61 団体（2,298 名）が参加した。

このほか、現場でリサイクルに関わっている事業者（組合員）が小学校や町内会に出向いてリサイクルや環境問題について話をし、移動リサイクル教室「出前講師」を行っており、年間約 40 団体（参加者 6,000 名）が受講している。大人向けの講座が横浜市環境事業推進委員の研修に採用されるほか、子ども向けの講座では横浜市環境創造局とのタイアップにより活動の拡大を図っている。



移動リサイクル教室「出前講師」